



「本よんで よんでもらって うれしいさん」

東京子ども図書館 2019年

『おばけがぞろぞろ』

ささきまき 文/絵

福音館書店 1994年

ボクが決めたよ。

コロナ禍のなか、2学期が始まりました。登園自粛が続いています。おうちにいるお友だち、元気ですか？

東京子ども図書館からきれいな冊子をいただきました。図書館の子育て中のスタッフが「**絵本のある子育て、楽しいですよ。**」と作ってくれた冊子です。150冊に近い絵本が、表紙のカラー写真で紹介されています。パラパラめくるとおなじみの本がずらり。幼稚園にも、町の図書館にもある本たちです。好きな本があるかな？

図書館や本屋さんで絵本を選んでいる親子の様子を見ていると「またその本なの？前に読んででしょう。」(=たくさんの中からただで借りられるのだから別の本にきなさい。),「もうそれは読んだから。」(=それは買いません。)というやりとりによく出会います。経験豊富な先生方の手によるリストに載った本、評価の定まった作者による本・・・子ども達に良い絵本に出会ってほしいという思いは、私たち大人の共通の思いです。たくさんの良い本を読んでほしい、読んであげたいのに、子どもはどうして同じ本ばかり選ぶのでしょうか。

理由は一つ。**好きだから**です。「**絵本は何度読んでも、読み終えることがない。**」と何かで読みました。私の経験からもそのように思います。ずっと手元にあって、何度でも読んでしまうもののようです。自分が選んだことを大切にされると、それが本にまつわるうれしい体験・小さな自信になって子どもの心にプラスされると思います。子どもは対象年齢などまるで関係なく、自分を表現するように好きな本を選びます。(大人だって本に関しては、車や服とは違いお金や体形、人の目を気にせず選べますものね。)

さて、今回紹介する本はこの冊子には出ていませんが、私と息子が大好きな本です。

オバケが次々に「あそびましょ。」とボクをさそいに来るダケのお話ですが、ワザワザ買いました。私がオバケの名前を覚えられず、本に書き込みをする必要があったからです。一緒に何度も読みました。当時は「子どもの友年少版」の雑誌のものしかありませんでしたが、やはりみんなが好きだったようで今回ハードカバーで出ていたので、また買いました。



この冊子・P8に〈くり返し よんでもらって **うれしいさん**〉が登場します。大好きな本に出会えたしあわせさんです。めぐみ幼稚園のみんなも**うれしいさん**だといいな。

2021年9月2日 梅崎啓子